

I. 現代文化学部卒業時アンケート調査の概要

1. 目的

- 1) 学生自身が4年間の現代文化学部における学びを振り返り、現代文化学部の教育、支援及び自己の成長について評価する。
- 2) 1)の結果に基づき、現代文化学部の継続的な教育改善に役立てる。

2. 実施

- 1) 対象：東京純心大学現代文化学部 令和5(2023)年度卒業生 25名
- 2) 時期：令和7(2025)年2月1日(土)
- 3) 配付・回収方法：令和7(2025)年2月1日の卒業論文・研究・制作発表会の全体説明にて配付、その日に回答
- 4) 回収状況：17名(2024年度卒業予定者19名)回収率89%

3. 質問項目

- 1) DP(「ディプロマ・ポリシー：卒業認定・学位授与に関する方針）の習得状況に関する自己評価
- 2) 現代文化学部の教育(講義・演習・実習・初年次教育)改善の必要性について
- 3) 現代文化学部の支援について
- 4) 学生の成長について
- 5) 現代文化学部の教育に対する満足の程度について

II 調査結果

1. DP(「ディプロマ・ポリシー：卒業認定・学位授与に関する方針）の自己評価について

		ない ①身 につ いて い	に つ い て い る ②あ ま り 程 度 身	え な い ③ど ち ら と も い	つ い て い る ④あ る 程 度 身 に	る ⑤身 につ いて い		
D P 1	豊かな感性と教養の土台の上に、保育・教育の高度な知識と技術を身につけ、「子ども・からだ・あそび」のキーワードを通して主体的に思考することができる。		豊かな感性と教養	0 (0%)	3 (18%)	2 (12%)	9 (53%)	3 (18%)
			保育・教育の高度な知識と技術	0 (0%)	2 (12%)	3 (18%)	10 (59%)	2 (12%)
			子どものからだ、こころ、あそびを理解して主体的に思考する力	0 (0%)	2 (12%)	3 (18%)	8 (47%)	4 (24%)
D P 2	子どもの幸せと平和の実現のために、多様な背景や文化を持つ地域の人々と痛みや喜びを分かち合う力や喜びを分かち合い、創造的なコミュニケーションを通して表現できる。		子どもの幸せと平和を願い求める力	1 (6%)	1 (6%)	2 (12%)	6 (35%)	7 (41%)
			地域の人々と痛みや喜びを分かち合う力	0 (0%)	2 (12%)	2 (12%)	9 (53%)	4 (24%)
			創造的なコミュニケーション能力	0 (0%)	2 (12%)	4 (24%)	7 (41%)	4 (24%)
D P 3	保育者としての高度な専門性に裏付けられた「愛に根ざした真の知恵」を持って主体的に判断し、多文化共生社会を生きる子どもたちの命を守り育てることができる。		保育者としての高度な専門的な知識や技能	0 (0%)	2 (12%)	5 (29%)	7 (41%)	3 (18%)
			「愛に根ざした真の知恵」を持つて主体的に判断する力	0 (0%)	2 (12%)	5 (29%)	7 (41%)	3 (18%)
			子どもの命を守り育てる力	0 (0%)	2 (12%)	3 (18%)	6 (35%)	6 (35%)

☞ DPの資質・能力に関して、「⑤身についている」、「④ある程度身についている」と回答したものを合わせると、DP1とDP2は約70%、DP3が約60%となっている。

DP達成状況

		い な い ① 身 に つ い て	つ い て い ない ② あ ま り 身 に	い え な い ③ ど ち ら と も	に つ い て い る ④ あ る 程 度 身	い る ⑤ 身 に つ い て
DP1	豊かな感性と教養の土台の上に、保育・教育の高度な知識と技術を身につけ、「こども・からだ・あそび」のキーワードを通して主体的に思考することができる。	0 (0%)	7 (14%)	8 (16%)	27 (53%)	9 (18%)
DP2	子どもの幸せと平和の実現のために、多様な背景や文化を持つ地域の人々と痛みや喜びを分かち合い、創造的なコミュニケーションを通して表現できる。	1 (2%)	5 (10%)	8 (16%)	22 (43%)	15 (29%)
DP3	保育者としての高度な専門性に裏付けられた「愛に根ざした真の知恵」を持って主体的に判断し、多文化共生社会を生きる子どもたちの命を守り育てることができる。	0 (0%)	6 (12%)	13 (25%)	20 (39%)	12 (24%)

☞ 「⑤身についている」、「④ある程度身についている」と回答したものを合わせると、「DP1」が72%、「DP2」が72%、「DP3」が63%となっている。

【参考】ディプロマ・ポリシー達成状況（自己評価）とディプロマ・ポリシーに関わる学修評価

		自己評価 Lv. 0-4	学修評価 Lv. 1-4
DP1	豊かな感性と教養の土台の上に、保育・教育の高度な知識と技術を身につけ、「こども・からだ・あそび」のキーワードを通して主体的に思考することができる。	2.75	2.64
DP2	子どもの幸せと平和の実現のために、多様な背景や文化を持つ地域の人々と痛みや喜びを分かち合い、創造的なコミュニケーションを通して表現できる。	2.88	3.01
DP3	保育者としての高度な専門性に裏付けられた「愛に根ざした真の知恵」を持って主体的に判断し、多文化共生社会を生きる子どもたちの命を守り育てることができる。	2.75	2.60

*自己評価は「⑤身についている」を4点、「④ある程度身についている」を3点、「③どちらともいえない」を2点、「②あまり身についていない」を1点、「①身についていない」を0点として換算
学修評価は、各ディプロマ・ポリシーを達成する必修科目の評価G Pの平均

2. 現代文化学部の教育（講義・演習・実習・初年次教育）改善の必要性について

		①改善の必要がある	②どちらともいえない	③改善の必要はない
1)	4年間の講義について	0 (0%)	14 (82%)	3 (18%)
2)	4年間の演習について	0 (0%)	10 (59%)	7 (41%)
3)	4年間の実習について	2 (12%)	9 (53%)	6 (35%)
4)	現代文化セミナーについて	0 (0%)	11 (65%)	6 (35%)

☞現代文化学部の教育（講義・演習・実習・初年次教育（現代文化セミナー））の改善の必要性について、「③改善の必要がない」と回答した割合は、演習・実習・初年次教育が35%から41%であるが、講義が18%とやや低くなっている。一方、「①改善の必要がある」と回答した割合は、実習が12%で、講義、演習、初年次教育は0%である。

3. 現代文化学部の支援

		①全く充実していなかつた	②充実していなかつた	③どちらともいえない	④充実していた	⑤とても充実していた
(1)	アドバイザーによるサポート・相談について	0 (0%)	0 (0%)	5 (29%)	4 (24%)	8 (47%)
(2)	進路・就職に対するサポート・相談について	0 (0%)	0 (0%)	5 (29%)	3 (18%)	9 (53%)
(3)	卒業論文・研究・制作に対する支援について	0 (0%)	0 (0%)	5 (29%)	3 (18%)	9 (53%)

☞ 「⑤大いに充実していた」、「④充実していた」と回答したものを合わせると、「(1) アドバイザーによるサポート・相談」、「(2) 進路・就職に対するサポート・相談」、「卒業論文・研究・制作に対する支援」が 71% となっている。

4. 本学での学びや体験を通して、入学時と比べた成長の程度

	①全く成長しなかつた	②成長しなかつた	③どちらともいえない	④成長した	⑤大いに成長した
本学での学びや体験を通して、入学時と比べてどの程度成長したか。	0 (0%)	0 (0%)	6 (35%)	6 (35%)	5 (29%)

☞ 64%の学生が「⑤大いに成長した」または「④成長した」と回答している。

5. 現代文化学部の教育に対する満足の程度

	①全く満足していない	②満足していない	③どちらともいえない	④満足している	⑤大いに満足している
現代文化学部の教育に満足しているか。	0 (0%)	0 (0%)	6 (35%)	7 (41%)	4 (24%)

[自由記述]

☞ 「⑤大いに満足している」、「④満足している」と回答したものを合わせると 65% になっている。